



大銀杏

根 城



南部師行公

2018年度 第7号

八戸市立根城中学校 平成30年10月30日発行

テーマに命が吹き込まれた！

先日の文化祭は、まさにタイトルのような思いを強くしました。根中祭実行委員会は「文化祭に向けて努力する一人一人の思いを全校で糸のように一本に紡いでほしい」という願いを込めて“紡～歴史を次なる時代へ～”をテーマに掲げました。

展示部門においても、ステージ発表においても、生徒はそれぞれの持ち味を發揮し、作品や演技・演奏を通して、根城中の文化の糸を紡ぎ上げることができました。その感動を表すコメントを3年生の学級通信の中から紹介します。

- ・生徒会執行部のみなさんは、この文化祭を最初から最後まですべて企画してくれたので感謝です。モザイクアートがすごかったです。



※全校生徒が各自のシートに赤や青の点を打ち、それを貼り合わせて4m×8mの大きな絵を制作。

- ・来年も根城の文化祭に来たくなった。一人一人が頑張ることで、こんなにもいいものができるなんて、とても感動した。
- ・体育祭とは違って自分の得意な分野で積極的に参加できる場なので、普段と違うみんな姿が見られてよかった。
- ・「仲間」がいる大切さを改めて学びました。どんなことでも「仲間」がいればすぐにできたり、予想以上の結果になったりすることがわかりました。
- ・今年の文化祭で学べたことは、みんなで協力し合って頑張ることの大切さです。
- ・「協力すること」今までは当たり前だと思っていましたが、今回改めてその大切さを知ることができました。

ほんの一部の紹介になりましたが、3年生のみならず1・2年生の感想の中にもたくさんの感動がちりばめられていました。また、1学期末まで本校で過ごし現在は山形県酒田市で暮らしている2名の兄弟が、お母さんの運転で6時間かけて前日祭に来てくれました。翌日は元のクラスの仲間と席を並べ、一緒に文化祭を楽しんでから帰りました。彼らも文化の糸を紡いだ一人となりました。

地域の方々や家族の皆様のご来校、PTA役員の方々のご協力に感謝申し上げます。

自助から共助へ

10月13日(土)に本校体育館において、根城地区連合町内会自主防災会主催の訓練が行われ、本校生徒と地域の方々を合わせて約700人が参加しました。全校生徒に配付されている「防災ノート」(八戸市教育委員会作成)には次のように述べられています。

中学生のみなさんは、一日のほとんどを自分たちが住んでいる地域の中で活動しています。大人は地域の外で働いていることが多く、災害時には地域にいないことも考えられます。実際にこの八戸市でも、先の東日本大震災では、中学生が地域の大きな力となることがわかり、これからも様々な場面での活躍が期待されています。そこで、もし災害が起きたときに自分たちに何ができるのか考えてみましょう。



中学生は、自助＝個人の取組(住宅の耐震化、家具の転倒防止、物資の備蓄、近所とのつながりの確保)の段階から、共助＝地域の取組(自主防災組織の結成・運営、防災教室・防災訓練の実施)の段階でも力を発揮できる存在です。

今年の訓練は、参加者が見やすいように、倒壊家屋からの救助や段ボールでのパーティション(間仕切り)づくりをステージで行いながら、その様子を大型スクリーンに映し出しました。また、婦人部と生徒による初めての炊き出しも実施しました。その他にも、AED操作、雑誌とロープによる骨折の応急手当等を体験しました。これからも“中学生にも救える命がある”という防災ノートの言葉を意識し、いざという時には頼られる人になってほしいと願っています。自主防災会及び根城分遣所の皆様にはお世話になりました。



← タイムリーな受賞

左の立派な書は、「JA共済 青森県小・中学生書道コンクール<半紙の部>」で最優秀賞に輝いた作品です。小学校1年生から中学校3年生までの各学年から1作品ずつ選ばれるものです。書家は本校1年5組の奥口陽平君です。

上記の自主防災訓練、地域密着型教育、町内会活動、三社大祭、えんぶり等、まさに根城地区がめざすものが、見事な書体で表現されています。彼の作品は全国コンクールへと駒を進めます。